

# 西宮版総合戦略の取組み状況（平成 28 年度）

平成 29 年 9 月

西宮市 政策局

# 目 次

1. 西宮版人口ビジョン・総合戦略【概要】 .....	1
2. 人口の状況.....	3
(1) 総人口の推移 .....	3
(2) 人口動態の状況 .....	4
3. 西宮版総合戦略 平成 28 年度進捗状況.....	5
(1) 平成 28 年度の状況について .....	5
基本目標(1) 稼ぐ力を引き出し市民の暮らしを支える産業支援 .....	5
基本目標(2) 大学との連携強化 .....	8
基本目標(3) 都市ブランドの発信強化.....	10
基本目標(4) 芸術文化・スポーツに触れる機会の促進.....	12
基本目標(5) 結婚・出産・子育て・子供の育ちへの支援.....	14
基本目標(6) 高齢者・障害のある人の暮らしへの支援.....	19
基本目標(7) 地域特性を踏まえた取組み.....	22
(2) 平成 28 年度実施の地方創生加速化交付金事業について .....	25
4. 地域創生総合戦略検証に係る有識者会議 .....	27

# 1. 西宮版人口ビジョン・総合戦略【概要】

## 【策定趣旨】

- ・急速に進展する少子高齢化への対応や人口の東京一極集中の是正等のため、各自治体で人口減少克服・地域創生のために地方版総合戦略の策定が行われています。
- ・西宮市でも、人口の現状を把握・分析するとともに、文教住宅都市としての魅力を生かし、「西宮らしい暮らし」を楽しむまちを基本コンセプトとした「西宮版人口ビジョン・総合戦略」を策定しました。

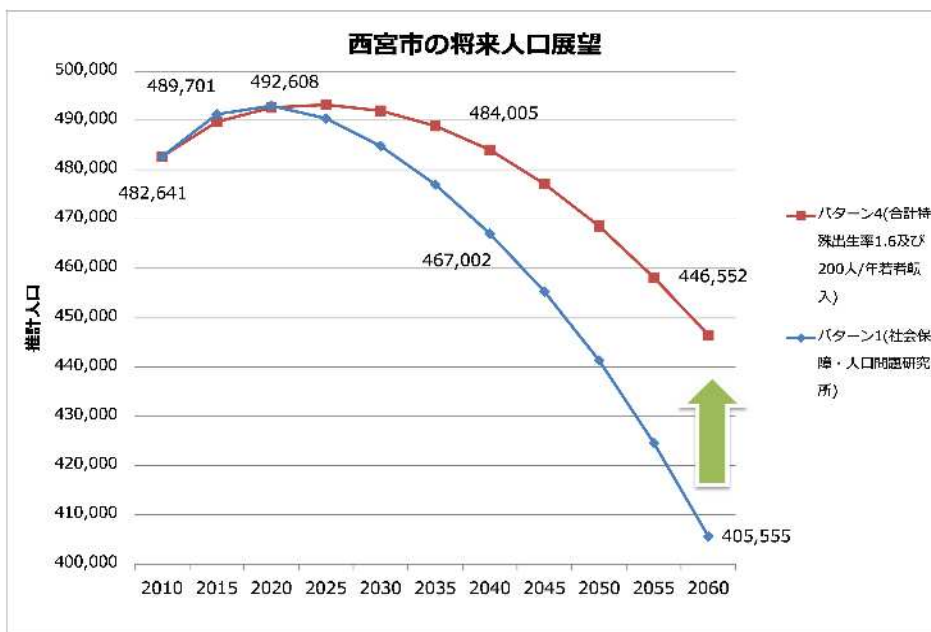
## 【人口の将来展望】

- ・西宮版人口ビジョンにおいて、社会動態、自然動態からいくつかのパターンを推計し、本市としてはパターン4を目指すこととした。

(パターン1) 国立社会保障・人口問題研究所の標準的な推計手法で、全国的に人口が減少するため人の移動が半減すると仮定したもの

(パターン4) 合計特殊出生率を1.6と仮定し、若い世代25～34歳の夫婦のみ世帯が200人/年(100世帯/年)転入すると仮定した場合

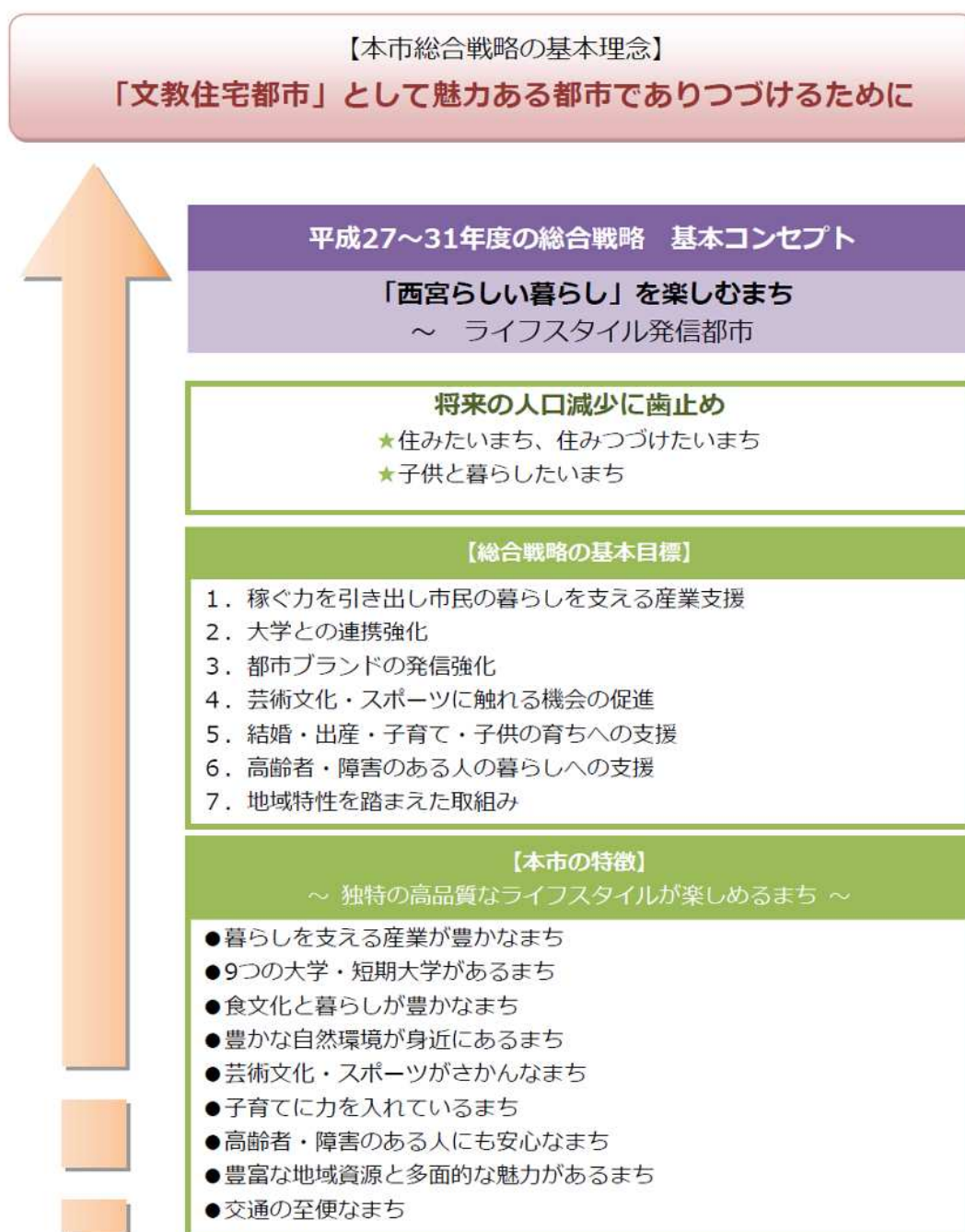
図-1 将来人口展望



【本市の政策目標】

・“「文教住宅都市」として魅力ある都市でありつづけるために”を本市の総合戦略の基本理念として必要な対策を講じていくこととします。

・地域創生の取組みにあたっては、「独特の高品質なライフスタイルが楽しめるまち」という本市の特徴を活かし、“「西宮らしい暮らし」を楽しむまち～ライフスタイル発信都市”を、平成 27～31 年度の総合戦略の基本コンセプトとして取組みを展開します。



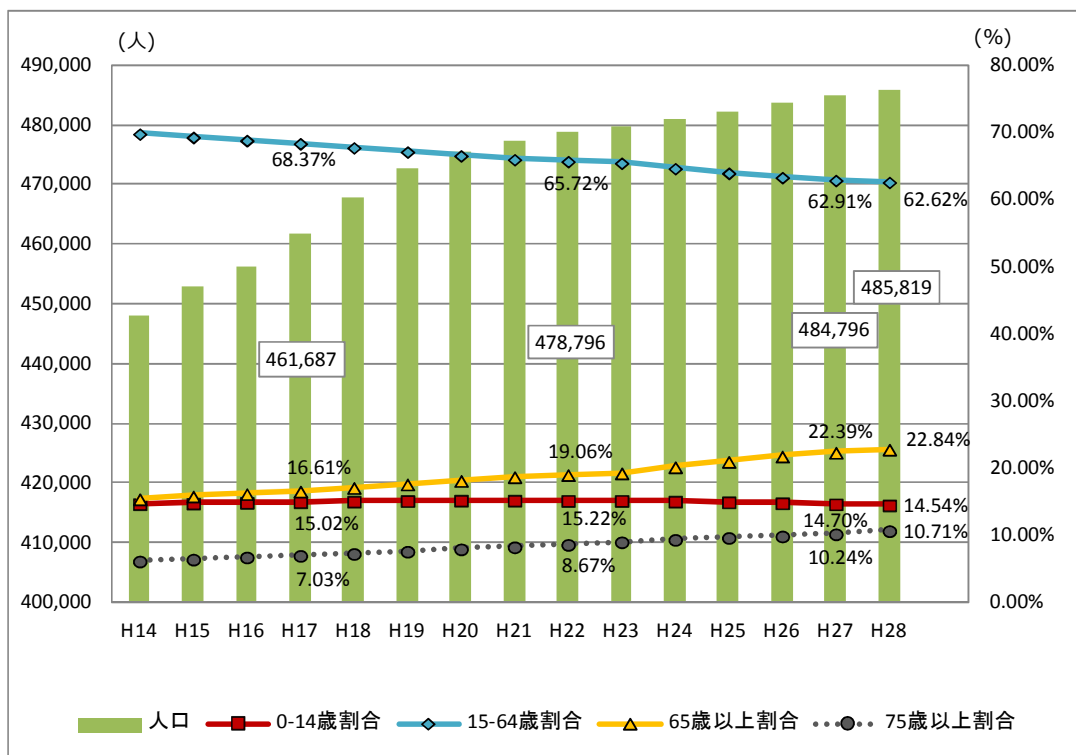
## 2. 人口の状況

### (1) 総人口の推移

・平成 28 年度 9 月末現在の人口は **485,819 人** (平成 27 年度より **1,023 人の増加**)

- ・15 - 64 歳割合は年々減少しており、平成 28 年度も同様に減少 (▲0.29 ポイント)
- ・65 歳以上割合は 22.84%、平成 27 年度から 0.45 ポイント増加
- ・0 - 14 歳割合は 14.54%、平成 27 年度から 0.16 ポイント減少
- ・75 歳以上割合は 10.71%、平成 27 年度から 0.47 ポイント増加

図 - 2 総人口の推移



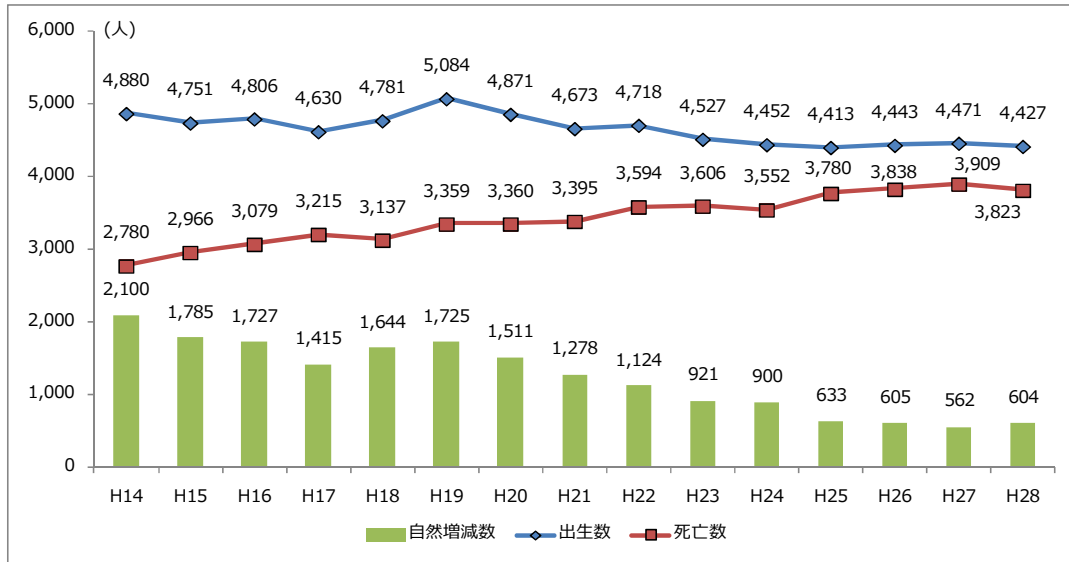
データ：平成 14 年～28 年\_9 月末時点\_西宮市住民基本台帳人口

## (2) 人口動態の状況

### ① 自然動態

- ・平成 28 年の出生数は 4,427 人で、出生数はここ数年横ばい傾向にある。
- ・一方で死亡数の減少により、自然増減数は平成 27 年よりも若干増えて 604 人となった。

図－3 西宮市における出生・死亡数の推移

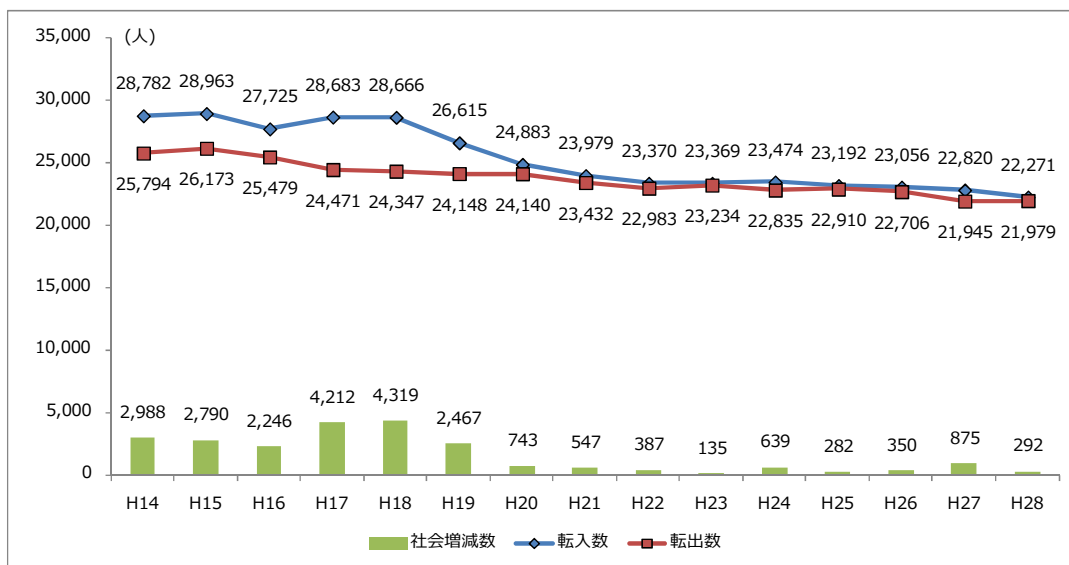


データ：平成 14 年～28 年\_\_西宮市住民基本台帳人口

### ② 社会動態

- ・平成 28 年の転入数は、22,271 人となっており、平成 27 年より 549 人減少した。
- ・一方で転出数が微増したため、平成 28 年の社会増減数は 292 人となり、平成 27 年より減少した。

図－4 西宮市の転出・転入数の推移（市内間転出入を除く）



### 3. 西宮版総合戦略 平成 28 年度進捗状況

#### (1) 平成 28 年度の状況について

基本目標(1) 稼ぐ力を引き出し市民の暮らしを支える産業支援
<p>【施策内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済の活性化と雇用確保の観点から、競争優位性の高い飲食料品関連産業を中心とする分野における本市産業の競争力強化に取り組みます。</li> <li>・市内で生産された商品やサービスが、消費意識の高い市民等により一層、購買・消費されることで、さらに質の高い商品やサービスの創出、市民のライフスタイルの質の向上につながる、正の経済循環（サイクル）が形成されることを目指します。</li> <li>・企業の社会貢献活動を通じて、本市の地域課題や政策課題に共に取り組む「企業市民」を増やし、持続可能なまちづくりに繋げていきます。</li> </ul>

#### 【数値目標】

・目標達成については今後の動向を見守る必要がある。（経済環境の状況により影響を受ける）

	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
1	市内総生産（GDP）	1兆4,836億円 (H25)	1兆4,734億円 (H27)	1兆5,402億円 (H31)
2	市内1事業所当たり製造品 出荷額等	1,545百万円 (H25)	—	2,000百万円 (H31)
3	市内従業者数	147,324人 (H24)	—	160,000人 (H31)

「1」：速報値

「2」：平成28年6月の経済センサス活動調査においてとりまとめられる(平成29年3月公表予定)

「3」：平成28年6月の経済センサス活動調査においてとりまとめられる(平成30年6月公表予定)

#### 【目標達成に向けた取組み内容（平成28年度の状況）】

①魅力ある企業へのワンストップ相談の充実	<p>■ 稼ぐ力が高い企業、魅力ある企業リストの作成</p> <p>⇒ 企業訪問で得た情報を基に、支援方法を検討した。また、必要に応じて商工会議所等と連携して支援方法の検討を行い、企業の稼ぐ力を高めた。</p>
	<p>■ 事業所訪問によるワンストップ相談</p> <p>⇒ 企業立地サポート事業において市内企業の訪問を行い、ニーズ把握に努め、必要に応じて支援制度や支援機関等の紹介を行った。</p>
②企業立地・定着の促進	<p>■ 市外からの工場移転の新規立地、及び市内企業の市内での移転や増築時の優遇制度の提供</p>

	⇒企業訪問により、企業の意向を把握し、ニーズに応えるとともに、企業立地奨励金制度の周知・活用の推進を図った。
	□市外企業の本社機能を市内に移転する場合の優遇制度の創設 ⇒企業立地サポート事業において制度周知を行った。
③産学官連携の推進	■産学連携による製品開発やテストマーケティング(新製品の試験販売)、販路拡大の支援 ⇒「産学官連携による西宮ブランド産品創造事業」で5件を採択し、新商品開発等経費を補助するとともに、市内大学との連携支援を行った。各案件において試作品等が完成し、テストマーケティングや販売が実施された。
④起業・創業支援によるすそ野拡大	■西宮商工会議所による重点的な経営指導 ⇒創業支援事業計画に基づき、窓口指導や巡回指導、過去のスクール参加者へのフォロー等が実施された。 ■セミナー・スクール等による起業者の育成 ⇒創業支援事業計画に基づくセミナーやスクールを実施したほか、さらなるすそ野拡大のための催しとして起業応援フェアを開催した。
⑤西宮ブランド(産品)の構築	□西宮ブランド(産品)の選定及び育成(日本酒、パン、ファッション、伝統工芸品、農産物等) ⇒ふるさと納税の返礼品として、西宮らしさを伝える市内の産品を選定した。また、ブランド発信事業を活用して、西宮の和菓子ブランドをPRする「とおかし」プロジェクトが実施されている。
⑥市内産品の販路拡大	■大型量販店と連携した西宮産品の常設販売やイベントの開催(日本酒、スイーツ、農産物等) ⇒イオンとの連携協定を踏まえて、市内産品の販路拡大に向け、市内店舗での①西宮の銘酒コーナーの常設売場設置 ②選抜高校野球時の甲子園みやげ特設売場への市内スイーツ出品を実現した。
⑦市内事業者の受注機会の確保	■事業内容に応じた市内事業者の受注機会の確保 ⇒市内の事業者の受注機会を拡大し、市内経済の活性化を図るため、「西宮市小規模修繕契約希望者登録制度」を設けており、庁内にその制度の周知を行い活用を促した。
⑧商店街・商業団体活動の活性化	■商業団体による事業の企画・実施の支援 ⇒企画会議への参加や広報に関する側面的支援を行うとともに補助事業に対して補助金を交付した。 ■空き店舗活用支援による商店街の活性化 ⇒制度の通知に努め、補助条件を満たした申請者に補助金を交付した。
⑨「企業市民」との協働	■工場見学や理科プログラムの実施 ⇒企画会議への参加や広報に関する側面的支援を行うとともに補助事業に対して補助金を交付した。
⑩ワーク・ライフ・バランスの推進	■ワーク・ライフ・バランス実践企業の把握・顕彰 ⇒ひょうご仕事と生活センターと連携し、「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」宣言企業の掘り起こしに努めた。

□新規(H28年度開始)

■継続または拡充



**【指標値】**

取組み 内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	支援対象企業数	—	13件 (H28)	50件 (H31)
②	企業誘致数（市内移転含む） 【延べ】	3件 (H26)	4件 (H28)	10件 (H31)
	雇用者数【延べ】	94人 (H26)	113人 (H28)	500人 (H31)
③	産学官連携件数【延べ】	—	7件 (H28)	10件 (H31)
④	創業支援による起業者数	64件 (H26)	112件 (H28)	120件 (H31)
⑤	西宮ブランド取扱商品数	—	2件 (H28)	20件 (H31)
⑥	川上～川中～川下企業間の マッチング件数	—	4件 (H28)	20件 (H31)

## 基本目標(2) 大学との連携強化

### 【施策内容の概要】

・本市には、9つの特色のある大学、短期大学が立地し、約3万6千人の大学生が通学している「大学のまち」です。今後も市内大学が活力を維持していくための環境づくりや、豊かな地域社会の構築をめざして「大学のまち西宮」を再認識し、それに相応しい都市の魅力づくりに取り組んでいきます。

### 【数値目標】

・事業数は順調に増えており、各部局、大学、双方からのニーズは高い。

	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
1	市と市内大学との連携事業数	37 事業 (H26)	55 事業 (H28)	100 事業 (H31)

### 【目標達成に向けた取組み内容（平成28年度の状況）】

①大学と連携したまちづくり	□大学との連携強化を図るための体制整備、市の連携協力窓口の明確化 ⇒大学連携課を新設し、大学、市内部の連携ニーズの把握に努めた。
	■大学の教育・研究環境づくりの充実に向けた大学経営陣との定期的な意見交換、ニーズ把握 ⇒西宮市大学交流協議会理事会（各大学学長・西宮商工会議所会頭・市長で構成）において意見交換を行った。
	■市内外の大学に関する情報の収集 ⇒関連情報の収集に努めた。
	■西宮市大学生受入研修（インターンシップ）の実施 ⇒市内大学より12名を受入れ、研修事業を行った。
	■大学等の施設更新にあわせた機動的な都市計画制度等の運用 ⇒関学上ヶ原キャンパスの施設整備に関し、関学との意見交換を受け、都市計画部にて「景観地区の指定」及び「周辺道路整備を含めた交通課題の解消」に向けた検討を開始。
	■「大学のまち西宮」の発信強化 ⇒西宮市大学交流協議会に委託し、「大学のまち西宮」をPRする冊子を作成し、市内大学生に配布した。
②大学の知的資産と市の資産の相互活用	■オープンキャンパスや大学主催講座など大学が実施する事業の市民への情報提供 ⇒大学へ情報提供を依頼し、随時HPなどで情報を発信。
③大学と地域・企業との交流支援	■大学・大学生・地域交流イベント（大学交流祭）の開催 ⇒第16回大学交流祭を11月27日に開催した。また、西宮市大学交流協議

	<p>会大学連携学生プロジェクトチーム企画・運営による学生間・学生と地域の交流イベント「JOY スポ」を開催した。</p> <p>■ 学生ビジネスアイデアコンテスト及び市内企業の経営者によるセミナーの開催 ⇒学生ビジネスアイデアコンテストの1次審査通過者を対象に、市内企業経営者によるブラッシュアップセミナーを開催した。</p> <p>■ ボランティア交流事業などの大学交流協議会地域連携推進事業への支援 ⇒西宮市大学交流協議会の行っているボランティア交流事業を支援した。</p> <p>■ 市の施策や地域活動を支援する学生ボランティアのコーディネート ⇒西宮市大学交流協議会事業として実施。</p>
④市内企業と大学生との就職マッチング	<p>□市内大学、商工会議所、ハローワーク、市が参画する西宮市大学等就職支援情報交換会の設置 ⇒西宮市大学等就職支援情報交換会を開催し、関係機関との連携を図った。</p> <p>■ 合同就職説明会、大学内での面接会、就職支援セミナー、職場見学、インターンシップ等の開催 ⇒合同就職面接会を開催し、求人企業15社、学生等49名の参加があった。また、就職支援セミナーを開催し、19名の参加があった。</p> <p>■ 地元就職応援サイト「サクラナビ」による情報発信の拡充 ⇒「サクラナビ」をリニューアルし、掲載内容の充実を図った。</p>

□新規(H28年度開始)

■継続または拡充

### 【指標値】

取組み内容	指標(単位)	基準値	最新実績値	目標値
①	機動的な都市計画制度等の運用箇所	1箇所 (H26)	1箇所 (H28)	3箇所 (H31)
②	大学交流センター研究関連利用件数(授業含む)	869件 (H26)	917件 (H28)	1,200件 (H31)
	インターカレッジ西宮大学共同講座受講者数	68人/年 (H26)	51人/年 (H28)	200人/年 (H31)
③	学生ボランティア派遣者数(西宮市大学交流協議会事業)	96人 (H26)	78人 (H28)	150人 (H31)
	大学・大学生・地域交流イベントの来場者数(大学交流祭)	5,000人/年 (H26)	3,000人/年 (H28)	6,500人/年 (H31)
④	マッチング事業による新規就職者数	20人 (H26)	12人 (H28)	100人 (H31)

## 基本目標(3) 都市ブランドの発信強化

### 【施策内容の概要】

・本市は、「住みたいまち」として評価され、多様な性格を持った「生活そのものを楽しめる魅力的なまち」というイメージを有しています。この都市イメージを活かし、本市の都市ブランドをさらに高めていくとともに、本市の魅力をPRする情報発信の強化に取り組みます。

### 【数値目標】

- ・基準値となる平成 27 年度より着実に順位を上げた。
- ・今後も西宮ブランドの市内外への情報発信による効果を注視したい。

	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
1	地域ブランド調査（魅力度ランキング）	113 位 (H27)	96 位 (H28)	60 位 (H31)

### 【目標達成に向けた取組み内容（平成 28 年度の状況）】

①西宮の休日の過ごし方の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多彩な魅力を活用した西宮の休日の過ごし方の提案 ⇒大人が楽しめるプログラムをまとめた「まちたびにしのみや」、親子が楽しめるプログラムをまとめた「まちたびにしのみや for Family」を開催した。</li> <li>■ 西宮市観光キャラクター「みやたん」を活用した西宮の魅力のPR ⇒市内を中心に、イベント等に出演した（213回）。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 西宮ブランド（産品）の情報発信 ⇒観光案内所での販売などを通じて、西宮ブランドの発信に取り組んだ。また、ふるさと納税について、返礼品の送付を開始した。</li> <li>■ 日本酒振興プロジェクトの実施 ⇒日本酒振興プロジェクトとして、蔵開や日本酒学校などを開催した。</li> </ul>
②西宮ブランド（産品）の情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 西宮ブランド（産品）の情報発信 ⇒観光案内所での販売などを通じて、西宮ブランドの発信に取り組んだ。また、ふるさと納税について、返礼品の送付を開始した。</li> <li>■ 日本酒振興プロジェクトの実施 ⇒日本酒振興プロジェクトとして、蔵開や日本酒学校などを開催した。</li> </ul>
③主要駅等での情報発信拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観光案内所の運営 ⇒にしのみや観光案内所、こうしえん観光案内所で、67,212 人の来所があった。</li> </ul>
④市内外への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ インターネット等を活用した効果的な情報発信 ⇒西宮に暮らすことの豊かさや楽しさを住民にもっと気付いてもらうほか、西宮の様々な魅力を市内外に発信し、更なる転入や定住を促すことを目的として、ライフスタイルを切り口とした西宮の楽しみ方を発信する、西宮市シティプロモーションサイト「NISHINOMIYA COMMONS」を開設した。</li> </ul>

□ 新規(H28 年度開始)

■ 継続または拡充

**【指標値】**

取組み 内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	実施プログラムへの参加者数	—	3,010 人/年 (H28)	10,000 人/年 (H31)
③	観光案内所の利用者数	29,106 人/年 (H26)	67,212 人/年 (H28)	50,000 人/年 (H31)

## 基本目標(4) 芸術文化・スポーツに触れる機会の促進

### 【施策内容の概要】

・本市では、進取の気風のもと、市民が主体となって芸術・文化活動やスポーツ活動が活発に行われています。市内外の方々に積極的、効果的な情報発信を行い、本市で楽しみながら質の高い生活ができることを情報発信します。

### 【数値目標】

・芸術文化企画数については、設備改修等に伴う休館状況により、年間実績値に増減がある。  
 ・スポーツクラブ 21 の会員数は、ここ数年少しずつ減少傾向にあるため、兵庫県が提示するガイドラインに基づき、連携・統合等を含めた将来のあり方について研究する必要がある。

	指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
1	市民主催の芸術文化企画数	551 件 (H26)	535 件 (H28)	580 件 (H31)
2	スポーツクラブ 21 の会員数	13,729 人 (H26)	12,347 人 (H28)	15,000 人 (H31)

### 【目標達成に向けた取組み内容 (H28 年度の状況)】

①市民の芸術文化への参加促進	<p>■ 地域に密着した芸術文化活動の実施                      ⇒地域拠点の 40 を超える市民合唱団合同による市民コーラス大会、地域の伝統を引き継ぐ太鼓グループがプロと参加する太鼓フェスティバルコンサート、西宮神社のくぐつ師の歴史に端を発する人形劇祭り等、主体的な市民参画事業に取り組んだ。また、大谷記念美術館の企画展と連携した事業、西宮にゆかりのある作詞家岩谷時子の生誕 100 周年コンサートを実施した。また、友好都市である栲原町に西宮の市民オペレッタ劇団を派遣し、文化交流を行った。</p>
	<p>■ 文化施設の有効活用や利用促進の取組み                      ⇒市民会館の計画的な便器の洋式化、フレンドホール附属のピアノの全面オーバーホール、老朽化した諸施設の更新、ホール稼働率向上のための事例研究などを行なった。</p>
	<p>■ 西宮市大谷記念美術館の学芸員による児童・生徒を対象にした美術鑑賞会                      ⇒小、中学校の児童、生徒を学年単位で美術館に迎える学校アウトリーチ事業において、学芸員による鑑賞会を 8 件実施した。</p>
	<p>□ 市施設等を活用したアートイベント事業                      ⇒市内施設を題材にした作品をフェイスブックページ「無名の彫刻：西宮」にて発信するほか、独身者限定の写真撮影会を 1 回開催した。また、京都工芸繊維大学と連携し、大学生から市関係者向けに市内施設の利活用案を発表する文化事業開催施設発掘利活用会議を開催した。</p>

<p>②市民文化を担う人材の育成と活用</p>	<p>■プロのアーティストの小中学校への派遣（アウトリーチ事業） ⇒音楽 28 件、ダンス 2 件、美術 8 件の計 38 件を実施した。前年度比で件数は約 2.5 倍となったが、大きなトラブルもなく全ての希望を実施することができた。</p> <p>■市民が提案する事業に市が連携する協働事業提案の実施 ⇒市民主体で企画、実施する文化事業を、広報や助成で支援する協働事業提案制度に 10 件の応募があり、6 件を採択した。</p> <p>■文化を担う人材の育成（イベント企画講座等） ⇒大学交流センターと共催で学生、一般を対象にテーマごとに受講できるように変更した。1 回以上の参加者は延べ 27 人であった。平成 20 年度から継続している市内公立私立の中高校生の吹奏楽部員の演奏技術向上の楽器クリニックは、延べ 864 人の参加があった。</p>
<p>③文教住宅都市を支える学術的事業の拡充</p>	<p>■ライフサイエンスセミナー及び西宮湯川記念事業の拡充 ⇒ライフサイエンスセミナーは、例年実施していた「入門講座」について、より初心者向けの講座とするため、名称を「ライフサイエンスへの招待」に変更し、事業を実施した。西宮湯川記念事業では、「西宮湯川記念賞贈呈式」を市民の方に参加いただけるように科学セミナーと同時開催とし、12 月 3 日（土）にフレンテホールで実施した。</p>
<p>④スポーツの楽しさを体感できるまち、トップスポーツゲームを観戦できるまちの実現</p>	<p>■スポーツの素晴らしさ、楽しさを伝え、また技術が向上できる取組みの実施</p> <p>■地域スポーツの推進やスポーツ人口の拡大 ⇒「アスレチック・リエゾン・西宮」と協働し、市民や指導者向けの競技別講習会を 30 回程度、入門者向け教室を 5 回開催した。また、スポーツによる地域活性化推進事業にて、トップアスリートによる運動指導を 5 回、保護者のための親子体操教室を 15 回開催した。</p>

□新規(H28 年度開始)

■継続または拡充

### 【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	市及び文化振興財団の事業参加者数	137,373 人/年 (H26)	128,227 人/年 (H28)	160,000 人/年 (H31)
	市民ホールで開催された文化事業の来場者数	202,086 人/年 (H26)	208,294 人/年 (H28)	245,000 人/年 (H31)
	大谷記念美術館の来館者数	55,977 人/年 (H26)	103,375 人/年 (H28)	60,000 人/年 (H31)
②	西宮市小中学校アウトリーチ事業の参加児童数	—	4,368 人/年 (H28)	5,400 人/年 (H31)
	協働事業提案（芸術文化振興部門）の採択件数	7 件 (H26)	6 件 (H28)	12 件 (H31)
④	スポーツ教室等の参加人数	153,031 人/年 (H26)	170,130 人/年 (H28)	170,000 人/年 (H31)
	運動施設の稼働率	57.0% (H26)	57.0% (H28)	60.0% (H31)

## 基本目標(5) 結婚・出産・子育て・子供の育ちへの支援

### 【施策内容の概要】

- ・子供たちを安心して生み育てていけるよう、子供たちの健やかな成長を地域全体で見守る「子育てにやさしいまち」を目指していきます。
- ・「子育てが楽しい」「西宮で子育てがしたい」「西宮で教育を受けさせたい」まちであり続けるための施策を推進していきます。

### 【数値目標】

- ・基準値に使用した市区町村別の合計特殊出生率は5年毎の公表となる。

【参考】本市保健所で毎年算出している合計特殊出生率

(H22) 1.34、(H23) 1.33、(H24) 1.36、(H25) 1.37、(H26) 1.42、(H27) 1.45

- ・子育てを楽しんでいる親の割合については、第2期子ども・子育て支援事業計画（H32-H36）を策定する際に実施する保護者向けアンケート調査で判明する。

指標（単位）		基準値	最新実績値	目標値	
1	合計特殊出生率	1.32 (H22)	—	1.41 (H31)	
2	子育てを楽しんでいる親の割合	就学前	58.6% (H25)	—	65.0% (H31)
		小学生	60.2% (H25)	—	65.0% (H31)

「1」：基準値は、「平成20年～平成24年人口動態調査 保健所・市区町村別」（厚生労働省）を使用

今回の「平成25～平成29年」の数値は平成31年公表予定

「2」：アンケート調査は平成30年実施予定

### 【目標達成に向けた取組み内容（平成28年度の状況）】

①「結婚したい」「子育てしたい」と思えるための取組み	□独身者を対象としたスポーツ・文化事業等の取組み ⇒独身者を限定としたマラソン教室と写真撮影会を各1回開催した。
	□ライフスタイルを切り口とする情報発信の強化、定住促進 ⇒西宮に暮らすことの豊かさや楽しさを住民にもっと気付いてもらうほか、西宮の様々な魅力を市内外に発信し、更なる転入や定住を促すことを目的として、ライフスタイルを切り口とした西宮の楽しみ方を発信する、西宮市シティプロモーションサイト「NISHINOMIYA COMMONS」を開設した。



	<p>■ 赤ちゃんとその保護者と小・中・高校生とのふれあいの機会の提供 ⇒小学校 4 校・中学校 9 校・高等学校 1 校で実施。</p>
	<p>■ 学童期からの心身の発育や性に関する正しい知識の提供、支援体制の情報提供 ⇒小学校 4 年生を対象に、思春期講座を夏休みに 2 回実施した。また、地域からの性に関する出前健康講座の要請もあり、地域で 5 回実施した。</p>
<p>②妊娠から出産に至るまでの支援</p>	<p>■ 妊婦健康診査への費用助成 ⇒妊婦に対し妊婦健診受診助成券を交付し、助成上限額合計 82,000 円 (14 回)までの助成を行った。内訳は、11,000 円× 2 回、5,000 円×12 回。</p>
	<p>■ 特定不妊治療への助成 ⇒国の要綱に沿って、体外受精・顕微授精を受けられた夫婦に対し、医療保険が適用されない治療費の一部を助成(所得制限・助成回数制限あり)。H28 年度は延べ 736 件。さらに、H28 年 10 月から「不育症治療支援事業」を開始し、不育症の検査・治療を受けられた夫婦に対し、医療保険が適用されない治療費の一部を助成 (所得制限・助成回数制限あり)。</p>
	<p>■ 不妊治療に対する理解の普及及び心理的障壁の緩和 ⇒市ホームページや市政ニュース等により制度の広報を実施。また、県実施の「不育・不妊専門相談」の広報も合わせて実施。</p>
<p>③子育て支援の充実</p>	<p>■ 妊産婦や 0 歳から就学前の子育て家庭のニーズに合わせて情報提供や相談援助を行う「利用者支援事業」の実施 ⇒利用者支援事業 (基本型・特定型) 実施施設と保健福祉センターが連携しながら、個々の育児支援を実施した。基本型を 2 か所、特定型を 1 ヶ所で実施。</p>
	<p>■ 子育て支援に関する情報提供の充実 ⇒にのみや子育てガイド (冊子) 及び父子手帳等の発行・配布。また、主に妊娠期から就学前の子供がいる保護者向けに、利用者に応じた情報をリアルタイムに市から発信するモバイルアプリ「みやハグ」を構築した。</p>
	<p>■ 地域の子育て家庭が集える場の拡充 ⇒保育所における地域子育て支援拠点事業 (子育てひろば) を 2 箇所で実施。平成 28 年 4 月に新設小学校内に 1 か所開設。</p>
	<p>■ 民間施設の赤ちゃんの駅の登録・公表の実施、移動式赤ちゃんの駅貸出の実施 ⇒授乳室やおむつ交換台などを提供することができる施設を西宮市子育てバリアフリー施設「赤ちゃんの駅」として登録し、目印となるステッカーを建物入口等に貼付するとともに、市のホームページ上で公表している。また、趣旨に賛同していただける民間協力施設を増やすため、ホームページ上に募集ページを掲載した。さらに、移動式赤ちゃんの駅についても、要綱を整備し、貸出し手順等をホームページへ掲載し、利用者募集を行っている。平成 28 年度はあおぞら幼稚園の運動会と船坂マルシェのイベントに貸し出しを実施した。</p>
	<p>■ こども未来センターを拠点とした新しい支援のしくみの構築 ⇒課題のある子供の早期発見、社会生活における困難や不適応に陥ることの予防、それぞれの子供の生きる力を育むための基盤整備を図るため、子供の発達や育ち、学校生活で生じる不安や悩みなどについての相談、心身の発達に課題のある子供の通園療育や診療・リハビリ、学校園等の教職員や子供に対する支援などを実施した。</p>

	<p>□救急医療の充実 ⇒健康医療相談ハローにしのみや（24 時間対応電話相談）の利用件数 18,761 件。 阪神北広域こども急病センター（深夜 0 時以降）の西宮市からの受診者数 739 人。</p> <p>■乳幼児や子供への医療費助成 ⇒健康保険診療による医療費の自己負担額の全額または一部負担金を控除した額を助成。</p>
④保育サービスの充実	<p>■保育施設の新規開設や定員増による保育所待機児童の解消 ⇒新設整備や建替等により、民間保育所等（3 園・定員計 38 人）、小規模保育施設（7 園・定員計 82 人）、事業所内保育施設（2 園・定員計 31 人）の保育受入れ枠の拡大を図ったが、それを上回る保育申込みがあったため、待機児童数が増加した。（183 人→323 人）</p> <p>■発達に課題のある児童に対する加配保育士の配置の拡充 ⇒発達障害やその他ケアが必要な児童が年々増えており、より細やかな支援を行うため、平成 27 年度より加配保育士の配置を 3:1 から 2:1 に拡充した。 H26: 35 名、H27: 40 名、H28: 46 名の保育士を配置した。</p> <p>■病児保育の拡充 ⇒施設型病児保育を 2ヶ所（定員 6 名、定員 10 名）で実施。1ヶ所は 10 月に開園したところであり、利用実績は延べ 235 人である。他方の利用実績は、延べ 538 人である。また、訪問型病児保育・病後児保育料助成制度を開始し、利用実績は延べ 29 人である。</p> <p>■不足する民間保育所の保育士確保を支援 ⇒保育士就職フェア（年 2 回）を実施し、154 人が参加した。また、保育士ルートバスツアー（年 4 回）を実施し、30 人が参加した。また、新規事業として、保育士資格取得支援事業を実施。</p>
⑤子供の居場所の充実	<p>■留守家庭児童育成センターの充実 ⇒4 年生受入れを 4 施設において通年で実施し、長期休業中の 8 時間所（開所時間繰上げ）を 4 施設でおこなった。樋ノ口小学校において、仮設校舎内教室を育成センターに改修し、これにより平成 29 年度 4 月より当施設の待機は解消された。5 施設において指定管理者の公募を実施した。</p> <p>■子供の居場所づくり事業、放課後子供教室事業の推進 ⇒子供の居場所づくり事業は、小学校施設の屋外と屋内で事業を実施する従来の事業メニューに加え、新たに学校施設の屋内のみや公民館を活用した事業実施のほか、学校や地域の取組みを支援し居場所の充実を図る事業メニューを導入するなど 15 校区で試行を行った。放課後子供教室事業は、地区青少年愛護協議会 39 学区中 36 地区で実施した。（実施回数は 1,506 回、参加延べ人数は子供 47,712 人、大人 15,323 人）</p> <p>■小学校 4 年生から中学生を対象とした文化的講座「宮水ジュニア」事業の実施 ⇒一部の講座については企画運営を NPO 法人や学校法人、公民館定期使用グループなどに委託し、各公民館において、合計 53 講座を実施した（実施回数は 349 回、参加人数は 7,126 人）。</p>

⑥良好な教育環境の提供と信頼される学校づくり	<p>■ 学校園の教育目標の実現を支援する「自主・自律の学校応援事業」の実施 ⇒35 校園で実施。地域の参画と協働により、子供や地域の実態を踏まえ、インクルーシブ教育、小中一貫教育、学力向上をめざした取組みを支援した。また、食育・環境教育等の推進による特色ある学校づくりを支援した。</p>
	<p>■ ICT を活用した授業の実施と情報活用能力の育成 ⇒中学校普通教室への大型提示装置等の導入を行った。平成 27 年度に導入した教育用タブレットと併用することで、ICT を活用した授業をより効果的に行えるようになった。</p>
	<p>■ 小・中・市立高等学校への外国人外国語指導助手の配置による国際教育の充実 ⇒市内市立小・中・高等学校に全校配置。小学校は半期で週 1～2 日、中学校は半期で常勤（小規模校は週 3～4 日）、高等学校は通年で常勤配置している。外国文化への興味関心の高まり、コミュニケーションを図る意欲の向上が見られた。</p>
	<p>■ 小・中・特別支援学校における自校調理実施による安全でおいしい給食の提供 ⇒全校自校調理方式での給食を実施した。また、設備機器の更新、物資評価委員会の開催、食材の放射能検査を実施し安全でおいしい給食を提供できるよう努めた。</p>
	<p>■ 学校給食のアレルギー対応強化 ⇒平成 28 年度に学校給食献立作成・アレルゲン管理システムのテスト運用を市内 8 校で実施した。</p>
	<p>■ 小・中学校全校への特別支援教育支援員の配置等によるインクルーシブ教育の充実 ⇒LD、ADHD、高機能自閉症等により学習、行動面で著しく不安定な児童生徒や在籍する学級への支援、校内支援体制充実のため特別支援教育支援員を配置している。平成 28 年度は、全小・中学校（61 校）に各 1 名を週 25 時間（1 日 5 時間×5 日）配置した。</p>
	<p>■ 学校施設における空調設備の整備 ⇒小学校 11 校で空調設備整備工事を行い、小・中学校の普通教室への空調設備の整備を完了した。</p>
	<p>■ 私立幼稚園の就園に対する支援 ⇒対象人数：6,971 人、助成金額：851,811,025 円</p>

□新規(H28 年度開始)

■継続または拡充

**【指標値】**

取組み内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	対象イベントの開催数	—	2回 (H28)	6回 (H31)
②	母子健康手帳交付時における保健師の面接率	36.7% (H26)	68.7% (H28)	95% (H31)
③	地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）の実施箇所数	15箇所 (H26)	18箇所 (H28)	20箇所 (H31)
④	保育所待機児童数	76人 (H27)	323人 (H29)	0人 (H31)
⑤	留守家庭児童育成センター小学校4年生の受入れ施設数	2施設 (H27モデル実施)	4施設 (H28)	15施設 (H31)
⑥	全国学力・学習状況調査における偏差値が全国平均を上回った教科（知識/活用）の割合	100.0% (H26)	100.0% (H28)	100.0% (H31)
	小中学校の普通教室への空調設備の設置	63.3% (H26)	100.0% (H28)	100.0% (H31)

## 基本目標(6) 高齢者・障害のある人の暮らしへの支援

### 【施策内容の概要】

- ・今後も進展していく高齢社会に対応できる地域づくり・まちづくりを目指し、住まい、医療、介護 予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいきます。
- ・障害のある人もない人も、互いに人格と個性を尊重しあい支えあう共生のまちづくりに取り組んでいきます。

### 【数値目標】

- ・平成 28 年 2 月に「西宮市地域ケア会議設置運営要綱」を制定し運営についての整理を行ったことで、各センターの積極的な会議開催が進み、地域活動件数は目標値を達成した。
- ・要介護認定者の居宅サービス受給率は、施設整備等の影響により、年間実績値に増減がある。

	指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
1	地域活動件数(地域包括支援センター)	1,076 件 (H26)	1,395 件 (H28)	1,365 件 (H31)
2	要介護認定者の居宅サービス受給率	57.4% (H26)	57.6% (H28)	60.0% (H31)

### 【目標達成に向けた取組み内容（平成 28 年度の状況）】

①生活支援・相談支援体制の充実	<p>■サロンや昼食会など小地域福祉活動の推進 ⇒ふれあいいきいきサロン実施回数 937 件 ふれあいいきいきサロン参加者数 22,597 人 ボランティアセンター登録者数 3,872 人</p>
	<p>■民生委員・児童委員活動の推進及び支援 ⇒民生委員・児童委員会の広報誌「ともしび」3号の発刊、市民祭りでの「ふるさとブース」の出展を行い、広報の強化に努めた。</p>
	<p>■地域包括支援センター（高齢者あんしん窓口）の体制整備 ⇒地域包括支援センター 14ヶ所（職員総数：53名） ランチ型地域包括支援センター 1ヶ所（職員：0.5名）</p>
	<p>□地域住民が集い生活支援サービスを提供する地点拠点の整備（仮称ふれあい支えあいセンター） ⇒市内3箇所ですべて全市展開に向けたモデル事業を実施。（H26.10 鳴尾東地区で実施。H28.4 今津地区、H28.6 安井地区で新たに実施。） 延べ利用者数：18,624名</p>
②介護サービス・住まいの充実	<p>■在宅生活の継続に向けたショートステイの充実（「地域のショートステイ」の整備・普及） ⇒1事業者へ地域のショートステイの整備補助を行う。</p>

	<p>□「24時間あんしんサービス」の構築 ⇒医療介護連携5圏域のうち、鳴尾圏域でモデル実施。</p> <p>□在宅療養相談支援センターの整備 ⇒平成27年度に設置した甲東・甲陽園、瓦木圏域の2箇所に加えて、鳴尾、北部圏域の2箇所に在宅療養相談支援センターを設置し、計4箇所設置済み。</p> <p>■特別養護老人ホーム等の高齢者の住まいの整備 ⇒平成28年4月に、甲子園九番町の特別養護老人ホーム（定員75人）が開設した。</p>
③高齢者の知識・経験・技術等の活用支援、生きがいづくり	<p>■宮水学園受講者の地域貢献活動の促進及び支援 ⇒地域づくりの実践活動を評価・推奨することを目的に「宮水学園いきいき活動賞」を設立し、14団体を表彰した。</p>
④高齢者の就業機会の確保	<p>■高齢者の就労に関する相談の充実 ⇒キャリア・コンサルタントによる相談を通じて自らのキャリアを振り返り適職を探す支援をするほか、相談者の状況に応じた様々な助成や職業訓練の情報提供を行った。また、ハローワークと連携して各種セミナーを実施した。</p> <p>■西宮市シルバー人材センターなどへの支援 ⇒西宮市シルバー人材センターが実施する高年齢者就業機会確保事業に対して運営費の一部を補助した。</p>
⑤障害のある人の生活支援の充実	<p>■相談支援事業従事者を増やすための取組み ⇒相談支援従事者初任者研修を西宮市単独で開催。</p> <p>■研修等による相談支援事業者の質の向上 ⇒西宮市障害者あんしん相談窓口連絡会(相談支援部会)において、勉強会やグループワークを実施。</p> <p>■地域自立支援協議会等を活用したネットワーク作り ⇒運営委員会、くらし部会、地域生活移行部会、相談支援部会、しごと部会、子ども部会、権利擁護委員会を毎月もしくは隔月で開催。また、総会、報告会はそれぞれ年1回開催。</p> <p>■障害のある人の就労に関する相談支援の充実 ⇒アイビーへの相談件数 5,946件</p> <p>■福祉施設から企業等への一般就労移行促進 ⇒今年度の「一般就労促進プロジェクト」は、支援員のスキルアップ等を目的に、計8回の会議及び研修等を行った。</p> <p>■福祉的就労支援の強化 ⇒昨年度に引き続き、販路・企業開拓などに力を入れ、福祉事業所の売り上げ2,532万円分の支援を行った。</p>
⑥障害のある人の日中活動の場の整備	<p>■障害者自立支援施設の計画的な整備 ⇒既存施設の改修（防犯設備整備）を行った。</p> <p>■既存施設の受け入れ機能強化 ⇒いずみ園移転予定地のわかば園の解体が終了した。</p>

□新規(H28年度開始)

■継続または拡充

**【指標値】**

取組み 内容	指標（単位）	基準値	最新実績値	目標値
①	生活支援コーディネーター	—	3名 (H28)	6名 (H31)
②	地域のショートステイ総定員数	14人 (H26)	35人 (H28)	44人 (H31)
	特別養護老人ホームの総定員数	1,381人 (H26)	1,616人 (H28)	1,711人 (H31)
	在宅療養相談支援センターの 設置	—	4箇所 (H28)	5箇所 (H31)
③	生涯学習大学「宮水学園」講座 受講申込者数	2,963人/年 (H26)	3,159人/年 (H28)	3,500人 (H31)
④	西宮市シルバー人材センター 会員数	2,189人 (H26)	2,242人 (H28)	2,750人 (H31)
⑤	計画相談支援・障害児相談支 援の支給決定者数	394人 (H26)	2,484人 (H28)	3,936人 (H31)
	障害者就労生活支援センター 登録者数	446人 (H26)	533人 (H28)	650人 (H31)
⑥	市内指定生活介護事業所の 定員	481人 (H26)	554人 (H28)	511人 (H31)

## 基本目標(7) 地域特性を踏まえた取組み

### 【施策内容の概要】

・交通利便性の高さ、田園風景が残る環境、賑わい・活気のある環境など、本市には、多様な魅力があり、地域それぞれの特性があります。地域により抱えている課題も異なっているため、地域における市民活動への支援や、良好な住環境の保全、地域の魅力発信などを通じ、人口の増加や人口減少の抑制を図ります。

### 【数値目標】

・基準値となる平成 27 年度より着実にポイントを上げた。今後も、様々な地域課題の解決、特性を生かしたまちづくりが進められることによる効果を注視したい。

	指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
1	地域ブランド調査 (ぜひ住みたい・できれば住みたい)	6.7% (H27)	8.2% (H28)	12.0% (H31)

### 【目標達成に向けた取組み内容 (平成 28 年度の状況)】

①地域における市民活動への支援	<p>■ 市民活動、自治会運営等に関する相談支援、サークル活動等のための支援 ⇒自治会運営等に関する相談を機会あるごとに受けるとともに、自治会ガイドブック (加入促進編)、加入促進チラシを要望のある自治会等に配布するなどの支援を行った。</p> <p>■ 自治会等の公益的な活動中に発生した事故等に対する補償についての支援 ⇒6 件の事故に対して各種補償金を支給した。</p> <p>■ 市民団体が主体的に取り組む「にしのみや市民祭り」への支援 ⇒市内の各種団体が構成される「にしのみや市民祭り協議会」に対して、補助金の交付及び事務局を設置することにより支援を行った。 《第 41 回にしのみや市民祭り》 開催日：平成 28 年 10 月 22 日 (土) 来場者数：41,000 人</p>
②良好な住環境の保全と地域の魅力発信	<p>■ まちづくり協議会等への地区計画等策定に向けたアドバイザー派遣 ⇒地区計画や地域の土地利用等に関わる構想等の策定に取り組む 2 地区の団体にまちづくりの専門家を派遣した。</p> <p>□ 空き家活用による地域貢献活動への支援 (改修支援、マッチング支援) ⇒空き家バンク登録 (物件 3 利用希望団体 3 マッチング件数 0) 空き家改修費補助 (0 件) 空き家利活用関連相談 (22 件)</p> <p>□ 戸建住宅住替え支援 (改修支援等) ⇒空き家改修費補助 (0 件) 「マイホーム借上げ制度」説明会を 6 月に実施 (参加者 8 3 名) 空き家居住関連相談 (8 件)</p>



	<p>■ 宮っ子のいえアドバイザー派遣による地区コミュニティ形成支援 ⇒3 団体に対して計 4 回の派遣を実施し、市民主体の活動の支援を行った。</p> <p>□ すまいの総合窓口での住宅ニーズの収集及び住まいの情報発信 ⇒建築・リフォーム相談（103 件） 不動産相談（180 件） マンション管理相談（60 件）</p>
③市内移動の利便性向上	<p>■ 南北方向の交通アクセスの向上 ⇒市民意識調査結果を反映させて平成 21 年度に策定した「都市計画道路整備プログラム」に基づき道路整備を行っており、平成 29 年 3 月末現在の都市計画道路の整備率は 84%となっている。</p> <p>■ バス路線の拡充と利用に応じたダイヤの見直し等 ⇒バス事業者とバス路線の再編・拡充等について、協議を行い、JR 甲子園口駅南のバス乗り場の増設について協議がまとまった。</p> <p>■ バス停留所上屋・ベンチの設置やノンステップバス・バスロケーションシステムの導入 ⇒バス事業者と連携してノンステップバスの導入やバス停留所に上屋・ベンチの設置、バスロケーションシステムの導入について協議し、バス事業者に対して導入及び整備費の補助を行った。</p> <p>■ 主要駅における自転車駐車場（駐輪場）整備 ⇒主要駅の自転車整備 1 箇所、主要駅に隣接する自転車駐車場 4 箇所を増設を実施した。</p>
④人口減少・少子高齢化が先行する地区への対応	<p>■ 【鳴尾地区】地域特性に応じたスポーツ活動の企画支援と情報発信 ⇒高須西ミニバスケットボール教室が全国大会で準優勝するなど、バスケットボールの盛んな地域特性を活かした企画として、プロ球団である西宮ストークスと運動施設指定管理者の奥アンツカ(株)とをつなぎ、バスケットボールスクール浜甲子園校を平成 28 年 7 月に新規開講した。</p> <p>■ 【鳴尾地区】鉄道高架事業や駅周辺地区の整備にあわせた新たな土地利用の誘導・促進 ⇒平成 29 年 3 月に鉄道高架化完了、側道整備工事に着手。阪神電鉄、武庫川女子大学、西宮市による、課題検討や今後のスケジュールに関する情報共有の場を設けた。</p> <p>■ 【北部地区】国道 176 号名塩道路の未整備区間の早期整備促進 ⇒異常気象時通行規制区間の解消へ向け、生瀬工区の工事が着手された。</p> <p>■ 【北部地区】コミュニティ交通についての支援 ⇒運行損失等への助成を行ったほか、運行協議会への専門家派遣を実施した。</p> <p>■ 【北部地区】国見台における企業誘致 ⇒これまでの企業立地活動により、国見台の用地は残すところ 1 区画のみとなった。</p> <p>■ 【北部地区】自然を活用した交流の機会創出 ⇒船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）において、地域住民等による実行委員会が実施するアートイベントや農業祭と連携して、里山風景と農産品を活用したイベント「船坂マルシェ&amp;ふれあい広場」を開催し、地域を訪れる人と地域住民との交流の機会を創出した。</p> <p>■ 【北部地区】山口町船坂等の地元主体によるまちづくりについて支援 ⇒専門家の派遣や活動助成等の支援を実施した。船坂地区では、定住促進や</p>

	<p>農業・維持活性など地区の課題に取り組むため、空き家・空き地、遊休農地の実態調査などを実施している。また、船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）について、地域住民を主体として構成された団体を指定管理者とすることで、地域住民の交流の場として利用できるようにしているほか、ランチルームを夜間使用できるように平成 29 年 3 月に条例を改正した。</p>
--	---

□新規(H28 年度開始)

■継続または拡充

### 【指標値】

取組み内容	指標 (単位)	基準値	最新実績値	目標値
①	自治会加入率	77.3% (H26)	73.78% (H28)	80.0% (H31)
②	地区計画の策定件数	32 箇所 (H26)	33 箇所 (H28)	35 箇所 (H31)
	景観重点地区の指定	2 箇所 (H26)	4 箇所 (H28)	5 箇所 (H31)
	空き家地域活用件数	—	0 件 (H28)	5 件 (H31)
③	都市計画道路整備率	76% (H26)	84% (H28)	85% (H31)
	路線バス利用者数	49,822 人/日 (H26)	51,226 人/日 (H28)	50,000 人/日 (H31)
	踏切箇所数	42 箇所 (H26)	36 箇所 (H28)	36 箇所 (H31)
	自転車駐車場収容可能台数	29,730 台 (H26)	29,887 台 (H28)	30,000 台 (H31)
④	産・学・官によるまちづくりに関する連携協定	—	0 件 (H28)	1 件 (H31)
	船坂里山学校の利用者数	5,258 人/年 (H26)	16,189 人/年 (H28)	8,000 人/年 (H31)
	コミュニティ交通の利用率者数 (生瀬地区)	44 人/日 (H26 試験運行)	83.7 人/日 (H28)	88 人/日 (H31)
	さくらやまなみのバス利用者数	403,603 人/年 (H26)	427,209 人/年 (H28)	430,000 人/年 (H31)

## (2) 平成 28 年度実施の地方創生加速化交付金事業について

地方創生加速化交付金（平成 27 年度国補正予算）は、各地方公共団体において、それぞれの総合戦略に位置づけられた（ないしは位置づけられる予定である）事業であって、地域のしごと創生に重点を置きつつ、一億総活躍社会実現に向けた緊急対策にも資する、効果の発現が高い分野を対象として交付された。

西宮市では 3 事業について交付金を活用。交付決定額は 30,300 千円（実績額 23,888,371 円）である。

### 1. 産学官連携による西宮ブランド産品創造事業

#### 【事業概要】

市内の大学、企業が有する知的資産を相互に有効活用できる仕組みとして産学官連携による共同研究、商品開発、テストマーケティングを、西宮の強みである飲食料品製造業（日本酒、スイーツ[和菓子・洋菓子]）を対象に実施。

また、本市の強みである消費力、集客力を活かし、地域産業との経済的つながりを高め、西宮ブランド産品のプロモーション活動を市内外に展開した。また、地場産業の日本酒の活用や地域で愛されるスイーツなど産品の掘り起こしにより、西宮ブランドの確立を推進した。

（計画額 20,000,000 円、実績額 17,956,000 円）

#### 【重要業績評価指標など】

指標	基準値	目標値	実績値	事業効果	今後の事業方針
産学官連携による商品開発件数 （H27 年度からの累計）	2 件 （H27）	6 件	14 件	地方創生に 効果があった	事業内容の 見直し（改善）
産学官連携による販路拡大件数 （H27 年度からの累計）	0 件 （H27）	10 件	8 件		
市内 1 事業所あたりの 製造品出荷額等	1,545 百万円 （H25）	1,772 百万円	-		

※『市内 1 事業所あたりの製造品出荷額等』の実績値については、H30 年中に判明予定。

### 2. 船坂地区におけるアートや産品活用による地域おこし支援事業

#### 【事業概要】

専門家を派遣し、西宮船坂ビエンナーレのこれまでの総括と検証を行い、活動組織と住民間のコミュニケーションを促進し地区全体としての自立的継続的なまちづくりへの機運を高めた。合わせて船坂地区訪問者の満足度向上のため、より質の高いアートイベントを船坂小学校跡施設を中心に実施するべく本交付金により支援を行った。

また、船坂まちづくり部会が実施予定の耕作放棄地の農地復帰を目的とした蕎麦の作付面積拡大などの取り組みを念頭に、都市ブランド発信課による船坂マルシェを継続開催した。

（計画額 5,300,000 円、実績額 1,820,000 円）

【重要業績評価指標など】

指標	基準値	目標値	実績値	事業効果	今後の事業方針
船坂里山学校 (船坂小学校跡施設)来場者数	5,268 人 (H26)	6,900 人	16,189 人	地方創生に 効果があった	事業内容の 見直し(改善)
西宮船坂ビエンナーレ 入場料収入額	1,250 千円 (H26)	1,250 千円	613 千円		
船坂産農作物加工品等売上	499 千円 (H26)	1,000 千円	799 千円		

**3. 灘の酒 首都圏・海外PR事業**

【事業概要】

灘五郷酒造組合と神戸市、西宮市が連携し、国内最大の消費地である首都圏において「灘の酒」のPR事業を行うことにより、「灘の酒」のブランド力の向上並びに販路拡大を図った。

海外各地への販路拡大・酒蔵地域への誘客に向けたプロモーションを積極的に進めていくため、日本文化との親和性が高く、親日感情の強い台湾でプロモーション事業を実施。台湾では平成 28 年 6 月に全世界から 500 社を超える企業、約 6 万 6 千人のバイヤーなどが参加する食品見本市が開催され、その機会に「灘の酒」のプロモーション事業を行った。

(計画額 5,000,000 円、実績額 4,112,371 円)

【重要業績評価指標など】

指標	基準値	目標値	実績値	事業効果	今後の事業方針
市内酒造業アンテナショップへの 来所者数	145,948 人 (H26)	153,245 人	151,106 人	地方創生に 効果があった	事業の発展
課税出荷数量全国シェア	24.6% (H26)	25.0%	24.5%		
灘五郷輸出数量	5,881KL (H26)	6,028KL	6,958KL		

※『課税出荷数量全国シェア』『灘五郷輸出数量』の各数値は酒造年度(7/1-6/30)によるもの。

## 4. 地域創生総合戦略検証に係る有識者会議

本戦略に係る施策の検証及び推進にあたって、外部有識者からなる標記会議を設置した。

### 【委員名簿】

氏名	所属等
蟻田 剛毅	株式会社シュゼット 代表取締役社長
岡田 由美子	兵庫県阪神南県民センター長
尾上 典央	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部副部長
角野 幸博	関西学院大学総合政策学部 教授
清水 智子	有限会社キャップス 代表取締役
辰馬 章夫	西宮商工会議所 会頭

(五十音順、敬称略)

### 【開催概要】

日 時	平成 29 年 7 月 25 日 (火) 午後 1 時～ 3 時 5 分
場 所	西宮市役所本庁舎 541 会議室
出席委員	蟻田委員、岡田委員、尾上委員、角野委員、清水委員、辰馬委員
事務局	今村市長、松永副市長、掛田副市長、田村政策局長、清水政策局担当理事、楠本政策総括室長、四條政策推進課長ほか
会議の公開	公開
主な議題	西宮版総合戦略の取組み状況について 西宮版総合戦略の取組みに関するトピックス ・ふるさと納税 ・シティプロモーションサイト「西宮コモンズ」 ・子育てアプリ「みやハグ」 ・バスロケーションサービス

### 【主な意見】

#### ■ 西宮版総合戦略の取組み状況について

- ・合計特殊出生率がかなり上向いてきているが、実数ベースの自然増減数は下がってきており、今後の人口維持には課題があると言える。
- ・阪神南圏域では、県内大学卒業者がそのまま県内で働く割合が 2 割を切っている。いかにとどめるかが課題。
- ・人が集まってくるためには土地に魅力がないといけない。西宮市は今まで文教住宅都市という魅力で人を引きつけていたが、これからは魅力的な仕事場があることが重要になる。学生が卒業しても住み続けてもらうための要因にもなる。魅力的な事業体が育つことでそこに就職したい人が集まる循環ができるので、そこに何か工夫が必要。
- ・産学連携等を通じて、学生が市内企業に関心を持ってもらうための取り組みが必要。
- ・市と大学との連携強化については、連携の質・中身について踏み込んでもらえれば、まだまだ可能性があると思われる。
- ・神戸と大阪では、大阪に人が集まっている。一昔前と比べて、神戸は働く場所が少なくなった。職場が近いとい

う環境が若い層に好まれている。

- ・大阪に人が集まるのは、大学が都心に集まってきていることも一因としてある。
- ・大阪市は住宅の価格帯が西宮より安く、人口が流れていると感じる。
- ・西宮市の中での人の流れというものをを感じる。高齢化により、山の手に住んでいた人々が駅前に転居してきている。逆に車を運転できる若者が山の手に移り住むようなバランスがあると良い。
- ・就業者の従業先について、国勢調査結果をもっと長いスパンで精査すれば、大阪、神戸、地元、それぞれの引力の変化が見て取れるはず。
- ・西宮は通勤族が多い。そういう通勤族や単身赴任者のデータがとれたら面白い。
- ・一度は東京に住みたいと西宮市を離れる人もいるが、ずっと住みたいとは思っていないはずなので、そういう人をもう一度Uターンさせられたら良い。
- ・西宮戎にはまだまだ可能性がある。商売の神様なので、経済活動とも結び付けやすく、都市ブランドの発信強化にも繋がると思う。福男だけではもったいない。
- ・パーク&ライドや、公園敷地の利用など、新しい保育所施策は評価できる。子育て支援は西宮市の魅力として、もっと充実させていくべき。

#### ■ 西宮版総合戦略の取組みに関するトピックス

##### 《ふるさと納税》

- ・ふるさと西宮・甲子園寄附金のみ地域が限定されている。同じように地域を限定する寄附金メニューがあっても良いのではないか。
- ・文教住宅都市としての発展に寄与するものとか、市の魅力づくりに力を入れてることと寄附金をもっと結びつくようなタイトルだとわかりやすくして良い。
- ・返礼品を物でなく、事で返すことはできないか。西宮市特有の体験パッケージみたいなものができれば、西宮市の魅力を感じてもらおうことの強化につながると思う。SNSを通じて発信されれば、強力な循環も生まれる。
- ・寄附金の使い道について、あまり具体的に書きすぎると実施が難しくなる。10のメニューの中には逆に幅が広すぎて具体的なイメージが沸きにくいものもあり、表記に統一感がない。
- ・寄附金額の最低ラインが3万円というのは、妥当と思われる。
- ・西宮ブランドについては、もっと首都圏にPRしていくべきなので、納税額を少し増やしていく努力は必要ではないか。
- ・返礼品で寄付者の拡大を図るとするのは本質から外れている。

##### 《みやハグ》

- ・インストール数にはまだまだ伸びしろがあるので、広報に努めるべき。
- ・産婦人科や保育所にチラシを置いたら良い。

##### 《バスロケーションサービス》

- ・バスロケーションシステムのように、民間企業の力を借りたサービスが今後ふえたら良い。
- ・あまり交通の便の良くないところの方が、メリットを感じるシステムと思われる。
- ・高齢者への普及方法として、お孫さんから利用を勧めてもらうようなアプローチが効果的と思う。
- ・税金の納付書と一緒にチラシを封入して広報するのも良い。
- ・西宮市で生活するのに便利なアプリを詰め合わせて、市から勧めるような仕組みがあると良い。